

中之条町名久田8号古墳 発掘調査のあらまし



1983

中之条町教育委員会

はじめに

今から1700年ほど前から約400年間、各地の豪族が競い合うように大きなお墓をつくりました。丘を削り、土を盛りあげて造った大きな墓、それが古墳です。

群馬県は、「古墳王国」といわれるほど、古墳の多いことで有名です。県下には一万基を越える古墳があったそうです。この中には東日本最大の、全長210mもある太田市の天神山古墳をはじめとする大古墳や、数々のすぐれた副葬品を出土した古墳もすくなくありません。

古墳時代を通じて、特色のある古墳がたくさんつくられていて、当時の群馬県が強い力をもっていたことがわかります。

吾妻地方にも、数多くの古墳があります。中之条町や吾妻町を中心に、200基以上の古墳があったようです。

中之条町では、小川、只則、横尾、平などに、いくつもの古墳があつまって、古墳群をかたちづくっているのが見られます。

しかし残念なことに、正式の発掘調査が行なわれた古墳はほとんどなく、実際の古墳のようすもよくわかっていません。この調査を第一歩として、古代の中之条町のようすが、だんだん明らかになってゆくことでしょう。

幸い、名久田8号墳は保存されることになり、出土した副葬品も町立歴史民俗資料館に展示することができました。一度失なわれてしまうと、再び得ることのできない文化財をこのように、未来に伝えてゆけることは、たいへんうれしいことです。このパンフレットとともに、ささやかな歴史の旅を体験してください。

例言

1. このパンフレットは、昭和57年2月1日から9日まで行なった名久田8号墳の発掘調査の概要です。
2. 古墳の保存を前提としたため、発掘調査は最少限にとどめました。
3. 墳丘については $\frac{1}{50}$ 、石室については $\frac{1}{10}$ の実測図をつくりました。
4. 石室内の土については、1%目のふるいをかけ、小さな遺物も見落さないようにしました。
5. 名久田8号墳は、地主の小淵賢一さんの御好意で補修され、保存されています。
6. この古墳からの出土品は、一括して、中之条町歴史民俗資料館に保管、展示されています。
7. この調査に際して、小淵さんの御家族や県教育委員会文化財保護課のみなさんにた

いへんお世話になりました。また、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の御好意で、金属製遺物について保存処理をしていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

昭和58年3月20日 印刷

昭和58年3月30日 発行

編集発行 吾妻郡中之条町教育委員会

吾妻郡中之条町大字中之条町1091

TEL 0279 (75) 2111

印刷 山口印刷所

発掘調査の経過



- ① 調査前の名久田8号墳
畑のかたすみであって、石置き場になっていました。



- ② 発掘調査
発掘調査がはじまりました。古墳の姿をつかむため、くわしく調べます。



- ③ 石室の調査
きれいに土を取り出し、それをふるいにかけてみます。小さなものも見のがしません。



- ④ 第2トレンチ
白く見える層が火山灰層です。これを手がかりに、古墳の大きさを調べます。



- ⑤ 町立第5小学校の見学
古墳ってなんだろう。どんなものが出てきたのかな？



- ⑥ 発掘後の名久田8号墳
新しく生まれかわって、古代の中之条町について語りかけてくれます。

墳 丘 の 調 査

この古墳は、直径11mほどの円墳であることがわかりました。

現在見られる姿は、長い間にくずれ、あるいは畠耕作によって少しずつ削られて、もとの姿をうかがうことも難しくなっています。

西側では石室の裏側までが出てしまい、天井は、ただ一つ残された石が高く飛び出しています。

古墳の東西に掘ったトレンチでは、古墳をめぐる堀の跡などはみつきりませんが、古墳の周囲にかぎって、黄色い、かたくしまった火山灰の層がみつきりました。

群馬大学の新井房夫先生のお話によると、この火山灰は、榛名山の二ッ岳が爆発した時に降ったもので、F.A.という火山灰だそうです。

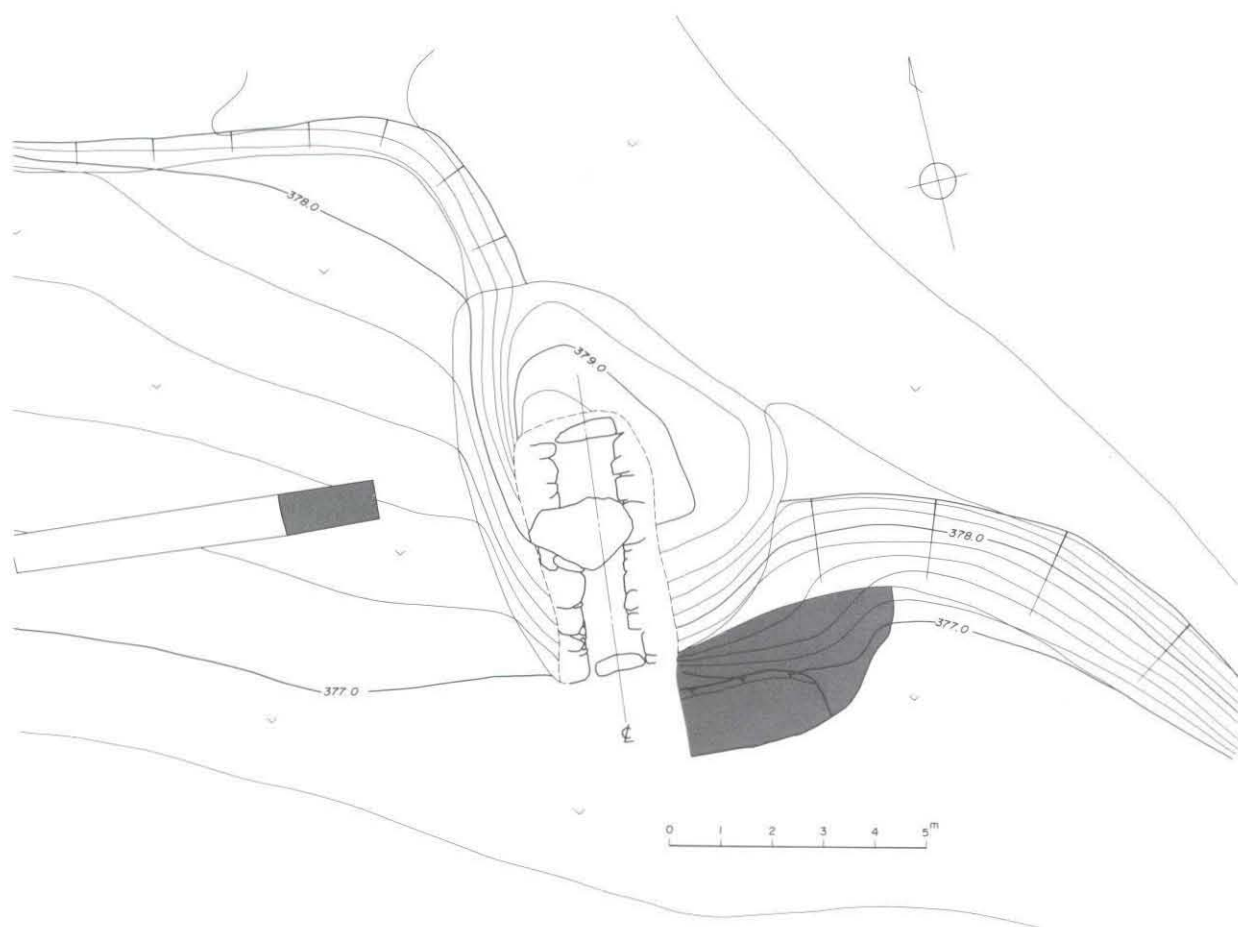
F.A.は、6世紀のはじめころに降ったと考えられ、古墳はこの上につくられています。

周囲の土を掘って墳丘を築いたため、古墳の下にだけこのF.A.層が残ったのでしょう。

そうすると、この層の残っている範囲が、古墳の大きさに相当すると考えられます。

東側の第1トレンチでは石室の中央線から5.2mの範囲内に、そして西側の第2トレンチでは5.8mの範囲内にF.A.が残っています。石室入口前の部分も、一定範囲内にこれが見られ、石室の床石下にも認められました。

これを手がかりに、古墳の大きさを考えてみると、玄室の中央を中心とした直径11mの円形が描かれます。これが名久田8号墳の形です。



石室の調査

石室は、両袖形の横穴式石室です。遺体を葬り、副葬品を納めた玄室と、そこに入る通路にあたる羨道とからなります。

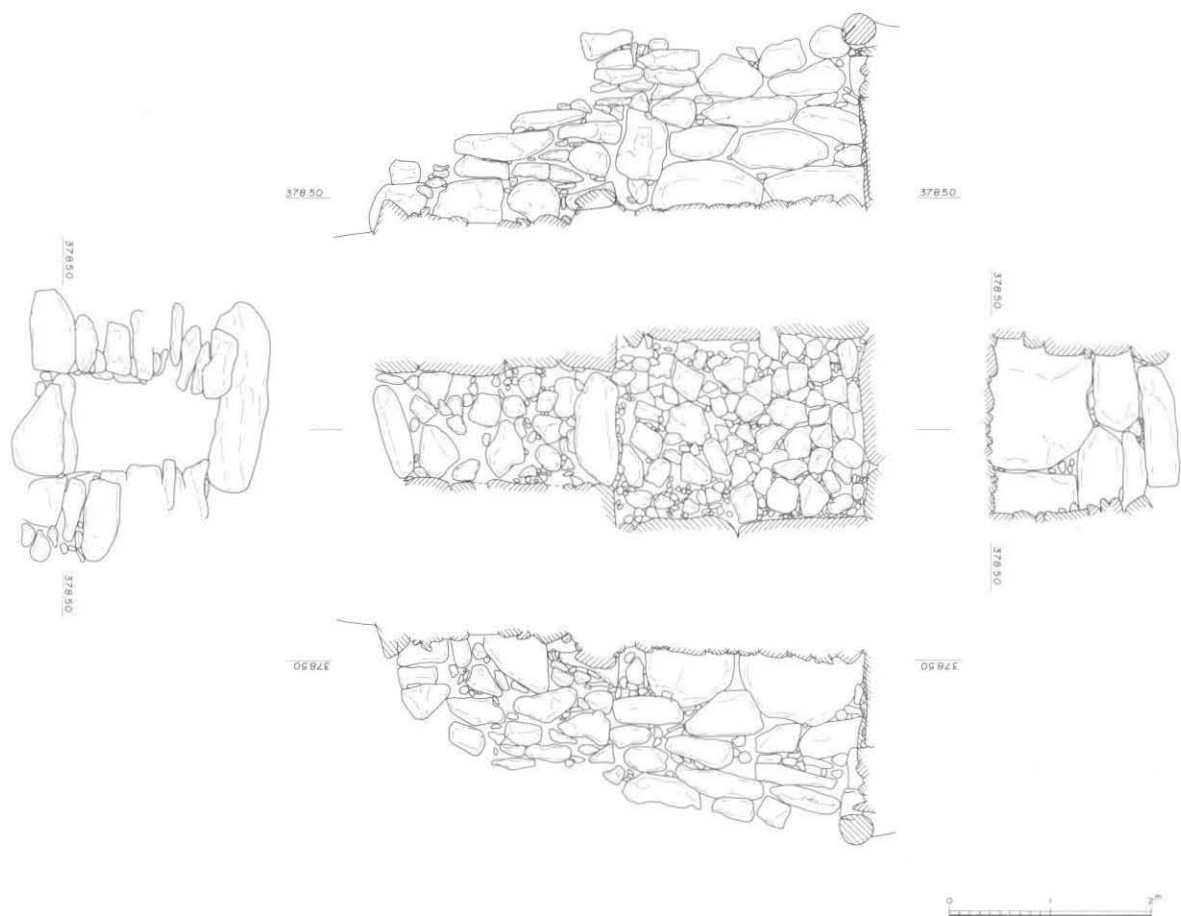
さまざまな形の石を積みあげて造ってありますが、内側の壁面にはたいらな面をそろえるように工夫して組みあげています。天井や奥壁には特に大きな石が用いられます。床には平石が敷かれています。

羨道と玄室の境、羨道の入口には、それぞれ仕切りの石が置かれています。

中央での長さ4.8m、玄室の長さ羨道の長さはほぼ同じく2.4mずつ、玄室奥壁の巾1.8m、高さも1.8m、羨道入口の巾は1.2mほどです。

玄室の中央が墳丘の中心と考えられること、玄室と羨道の長さが等しいこと、玄室の長さ巾が4対3の比であること、そして、30cmを単位として設計されたらしいことなどは、古墳時代も終りに近いころの古墳の特徴といわれています。

平8号墳展開図



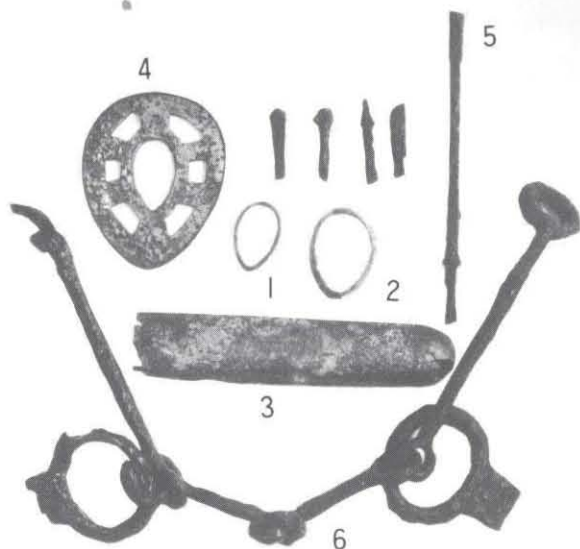
さまざまな副葬品

武器・馬具

1～3は、金張りの刀の鞆金具さやかなぐです。4は刀のつばで、やはり金張りが施されます。3の鞆尻金具さやじりの中には、木製の鞆が残っていました。二枚の板を削って、合わせています。鞆尻金具の長さが約14cmです。

5は鉄製のやじりです。完全な形をしたものはありませんでしたが6片見つかりました。5の長さは14.3cmあります。

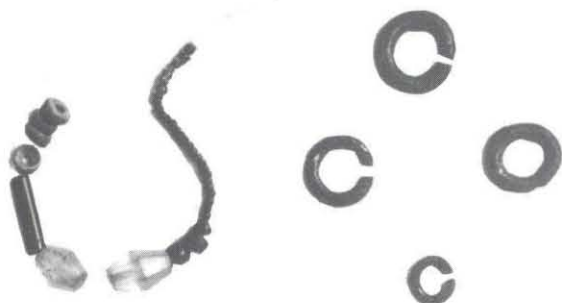
6は鉄製のくつわです。巾25cmほどです。



装身具

首飾りに使ったと思われる玉類が比較的多く見つかりました。滑石製の白玉うすびたま（4個）
碧玉製の管玉へきぎょく（1個）
水晶製の切子玉きりこたま（2個）
としてガラス製の小玉（33個）です。管玉の長さが2.5cmあります。

耳飾りの金環きんかん（銅の芯に金張りのもの）が4個出土しました。大きさは少しづつちがいが、一番大きいものが直径2.8cm、小さなものは1.7cmほどです。

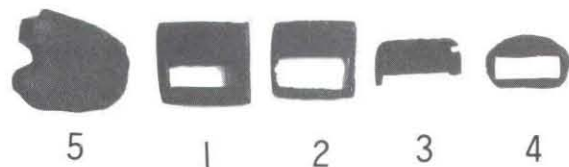


鍔帯金具かたい

この金具は、古代の役人が、それぞれの位を示すためにつけた帯の飾金具です。位によって金具の大きさや材質がちがいが、また、使用された年代も限られるため、遺跡の性格や年代を知るうえで、非常に重要なものです。

四角い巡方じゅうほう（1～3）は、巾2cm（1・2）、2.2cm、高さは2cmで、1と2は、同じ巡方の表裏の金具が離れたものとおもわれます。

半円形の丸鞆まるもとも（4）は、巾2cm、高さ1.3cmです。共に最も小さい形式で、下級の役人、武人のものでしょう。（5）は、帯の端をとめる金具です。



名久田8号墳とその周辺

名久田8号墳は、吾妻郡中之条町大字平にあります。中之条町の市街の東北方約3kmほど、名久田川の左岸に立地しています。この平の地域には、他にも20基ほどの古墳があって、平古墳群と呼ばれています。

町指定の史跡、「樋塚古墳」もすぐ近くにあります。樋塚古墳は、細長い、袖無し形の石室をもって、名久田8号墳より古く、6世紀の中ごろにつくられたものと考えられています。吾妻地方の古墳は、5世紀の中ごろから造られるようになったようです。吾妻町の机古墳がこの時期の古墳です。そして、樋塚古墳のつくられたところが最盛期で、以後は少なくなっていくとされてきました。ところが、名久田8号墳は、出土遺物などから、8世紀のはじめころ造られた古墳だということがわかり、中之条町の歴史の空白を、少しですが、埋めることができました。

8世紀のはじめ、というと、全国的にみても、古墳はほとんどつくられなくなっています。大きな古墳をつかって人々にその権力をみせつけていた豪族たちは、こんどはお寺をつくるようになってゆくのですね。吾妻町の金井廃寺は7世紀後半ごろに建てられたお寺で、中之条町の伊勢天台瓦窯で、この寺の屋根瓦を焼いていたようです。名久田8号墳に葬られた人は、新しい仏教文化にふれながらも、伝統的な古墳文化を保っていた最後の人だったのかもしれませんが。

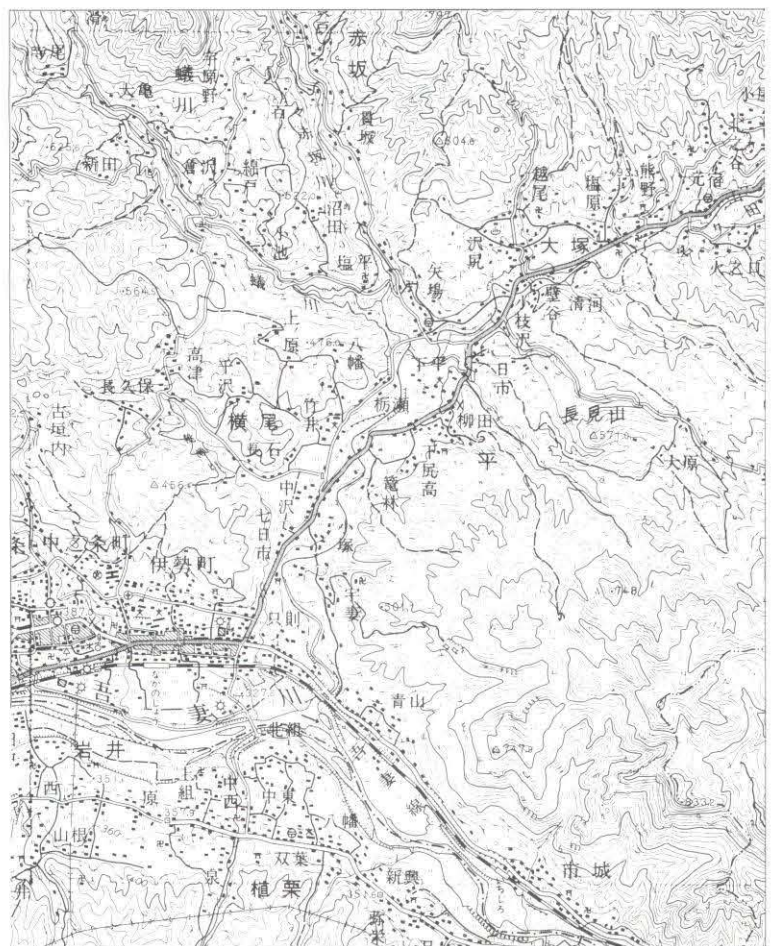
さて、このころの人々の住んでいたムラもあったはずなのですが、まだはっきりしたことはわかっていません。しかし、中之条町市城には、古代に「市代牧」がおかれたとされており、さらに、吾妻町

植栗地区には、古代の土地区画である条里制の名残があるといわれるなど、人々の生活の跡はそこそこに見ることができます。

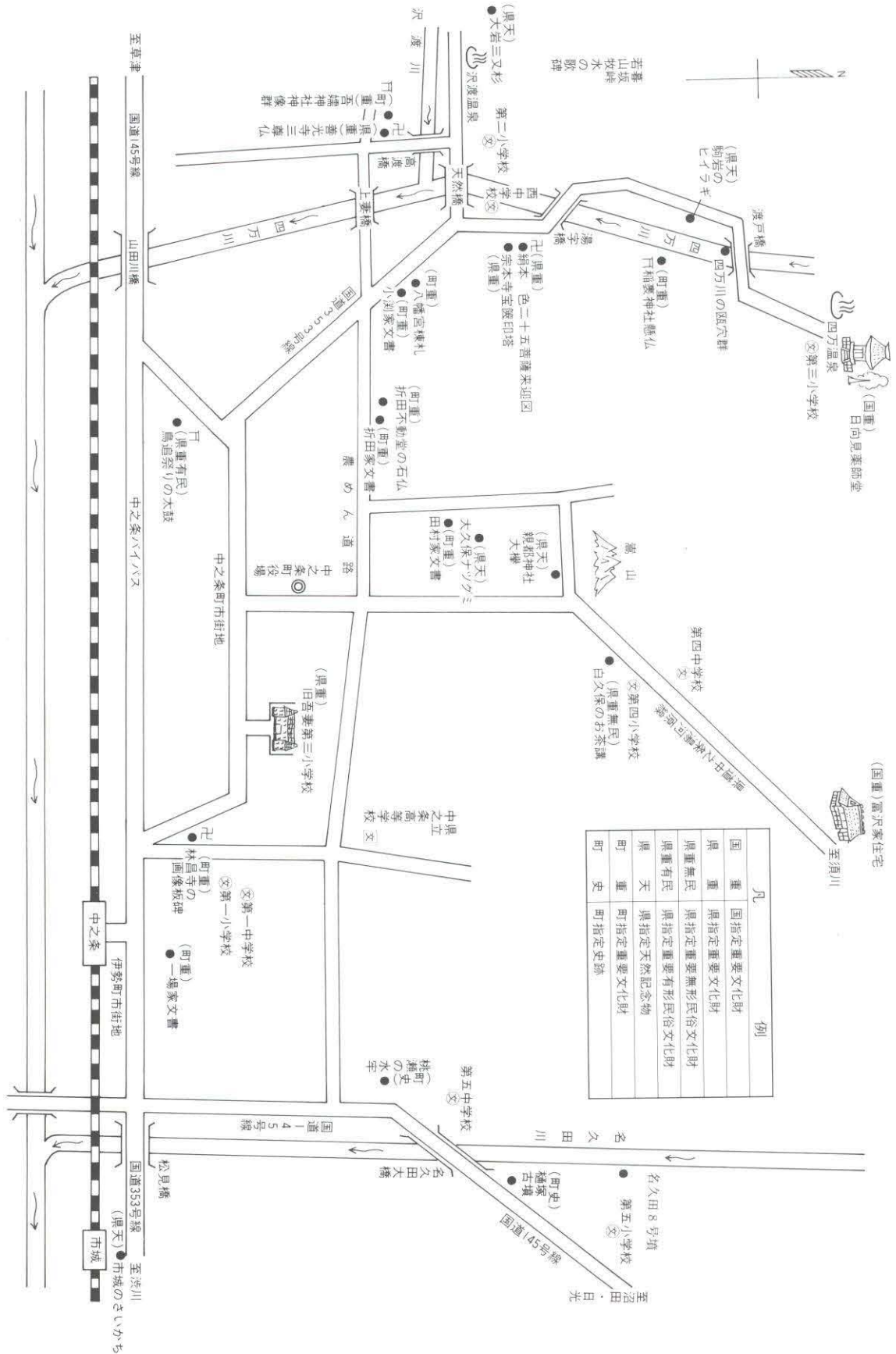
時代をさかのぼって、縄文時代の遺跡は少なくありません。

名久田8号墳周辺の畠からも、石斧や土器片が出土していますし、国指定の重要文化財である「ハート形土偶」は、吾妻町の郷原遺跡から出土したものです。

弥生時代はどうでしょう。吾妻町の岩櫃山遺跡からは、東日本に弥生文化が入ってきたごく初めのころのお墓が発見されました。中之条町折田の成田遺跡は、弥生時代後期の遺跡です。しかし、弥生時代の吾妻の姿は、全くといってよいほどわかっていません。今後の研究によって解き明かさなければならない問題がたくさん残っています。



文化財案内図



例	
国重	国指定重要文化財
県重	県指定重要文化財
県重無民	県指定重要無形民俗文化財
県重有民	県指定重要有形民俗文化財
国重	国指定天然記念物
町史	町指定重要文化財
	町指定史跡



春
若
山
坂
峰
水
の
歌
碑

(県天)
●大岩三又杉

●沢渡温泉

●第二小学校

●西中学校

●天然橋

●高度橋

●上妻橋

●(町重) 黒蓮寺善光寺三尊仏

●(町重) 吉端神社神像群

●(町重) 八幡宮神社

●(町重) 小川家文書

●(町重) 折田家文書

●(町重) 折田家文書

●(町重) 折田家文書

●(町重) 折田家文書

●(町重) 折田家文書

●(町重) 折田家文書

●(町重) 折田家文書

●(町重) 折田家文書

●(町重) 折田家文書

●(町重) 折田家文書

●(町重) 折田家文書

●(町重) 折田家文書

●(町重) 折田家文書

●(町重) 折田家文書

●(町重) 折田家文書